



今月新しく入りました。

●一般の本

／お母ちゃんからもろた日本一の言葉（作＝コシノ ジュンコ）／謎解きはディナーのあとで2（作＝東 川篤哉）／転迷 隠蔽捜査4（作＝今野 敏）／東京ロンダリング（作＝原田 ひ香）／望月青果店（作＝小手鞠るい）／天狗の剣 幕末京都守護職始末（作＝藤本ひとみ）／陽の鳥（作＝樹林 伸）

●子どもの本

／奇跡の犬 コスモスにありがとう（作＝中山聖子）／どんどこどん（作＝和歌山静子）／びゅーん びょーん（作＝ふじわらこういち）／とっておきのカレー（作＝きたじまごうき）／おこさまランチランド（作＝まるや まさとし）／ぼくのトイレ（作＝鈴木のりたけ）／スミス先生と海のぼうけん（作＝マイケル・ガーランド）

中でもこの本が **オススメ**です。

舟を編む

作＝三浦しをん



出版社に勤める光也は営業部では変人として持て余されていたが、人とは違う視点で言葉を捉える彼は、新しい辞書『大渡海』を編む仲間として辞書編集部を迎えられる。個性的な面々の中で、光也は辞書の世界に没頭する。しかし、問題が山積みの編集部。果たして『大渡海』は完成するのか……。

ざっくん！ショベルカー

作＝竹下文子



おにいさんのショベルカーがしごと にでかけます。ざっくんざっくん… あなをほったり、がけくずれをなおしたり、まちでもやまでもだいかつやく。きょうは、ショベルカーでどんなこうじをするのかな？



小さいうち

作＝中島 京子

赤 風の家で、女中として働いたタキの思い出が語られる。女中にとっていちばん大切なものの、それは、掃除や炊事の手際の良さだけではない。あらゆる種の頭の良さのよいうなものだ。そして、その頭の良さがタキにはある、と

前のご主人から評される。そして奉公にあがった坂の上のすてきなうち。若く美しい奥様とも、よく気が合い、女中としての能力を存分に発揮し、幸せの日々だった。が、やがて戦争の影が…。そして現代、タキが亡くなったあと意外な物語が展開する。



すてきなうち

作＝マーガレット・ワイズ・ブラウン

男 の子と女の子のおうち。動物たちのうち。素敵なおうちがいます。でも空飛ぶつばさがあつて、ころがる車輪もあつて、水にだつて浮かんじやう。風船だつて付いていて、窓には花も咲いてい

る。こんな素敵なおうち、いったい誰のおうちでしょう。60年ほど前に刊行された、このたび復刊となったかわいい絵本です。

春の桜、夏の海、秋の紅葉、冬の雪…。美しい四季が体感できるのは日本人の特権。そんな私たちだからこそ、読みたくなる「旬」の本があります。シリーズ「旬の本だな」。

1月は「おうち」をテーマに2冊の本をご紹介します。

紹介者は伊高浪子さん（いずみ読書会）です。





乳がんは40代で急増すると聞きました。検診は定期的に受けたほうがよいのでしょうか（40歳・女性）

現在20人に1人が乳がんになると言われています。特に40歳代の発症の増加が著しいことから、死亡率減少に向けた取り組みが行われています。

その1つとして乳がん検診が重要とされています。一般的に検診では、マンモグラフィ検査が広く行われていますが、乳腺エコー（超音波）検査の有用性も高いことから、近年検診への導入が行われつつあります。

検査では分かりにくい病変を捉えることができる点で有用性が高く、妊娠中や授乳中でマンモグラフィ検査が受けられない場合にもエコー検査なら安心して受けることができます（マンモグラフィ検査と乳腺エコー検査の主な特徴を下表にまとめていますのでご参照ください）。

【検査方法】

上半身の服を脱ぎベッドの上に仰向けになり、両手を頭側に挙げた状態で行います。次に、超音波を出す器具（プローブ）にゼリー状の液体を塗り、その器具で乳房全体を観察します。検査時間は約20分程度です。

この検査は、しこり（腫瘍）を発見することに優れています。触診でわからないような小さなしこりも画像として写真し出すことができます。また、悪性かを推定し、その大きさや位置、周囲との関係を知ることでもできます。

【検査は女性技師が行います】

乳がんは、家庭や社会にとって重要な時期にある女性に最も多く発生するがんです。早期に発見し、適切な治療を受けければ、ほぼ治療できます。乳房の温存療法も選べます。また検査は熟練した女性技師が担当しますのでご安心ください。他人事とは思わずに積極的に検診を受けましょう。

町立病院では、乳がん検診を月曜日から金曜日の午前中に行っています。また毎週水曜日から金曜日の午後、外来を開設していますので、この機会に受診してみませんか。

◆マンモグラフィ検査と乳腺エコー検査の主な特徴

マンモグラフィ	乳腺エコー
・がんの初期段階である微細石灰化を発見できる ・手で触れることのできないしこりを発見できる ・しこりの良性・悪性の推定が可能である ・検査時に多少の痛みがある ・20～30歳代では、病変を検出しにくい ・わずかながら被爆があり、妊娠中・授乳中は受けられない	・微細石灰化が発見しづらい ・手で触れることのできないしこりを発見できる ・しこりの良性・悪性の推定が可能である ・検査時に痛みや苦痛はない ・20～30歳代でも、しこりを発見できる ・検査時、痛みなどの苦痛が無く、被爆の心配がない

両検査とも乳がんの早期発見に大変優れています。この2つの検査で欠点を補えば、より高い検診が可能になります。



乳がんはどの年齢層でも起こり、特に40代で急増するのが乳がん。早期発見のためにも、マンモグラフィ検査と乳腺エコー検査の受診をお勧めします。

【アドバイザー】

松下 淳（まつした じゅん）・昭和55年九州医学技術専門学校卒業後、同年4月より産業医科大学病院臨床検査・輸血部に勤務、29年間在籍し、平成21年4月より専任町立病院勤務。日本超音波医学学会認定超音波検査士（消化器、体表臓器、循環器）。